

嘉穂地区小学校統合に関するアンケート調査

郵送	1,000 件
嘉穂地区小学校へ配布依頼	336 件

目 次

1. アンケート調査の概要	1
1.1. 調査の経緯	1
1.2. 回答率	1
1.3. 調査依頼	1
1.4. アンケート内容	1
2. 調査対象者の属性	4
2.1. 調査回答者の家族の就学状況	4
2.2. 調査回答者の性別と就学家族分類	4
2.3. 調査回答者の年齢と就学家族分類	5
2.4. 調査回答者の職業と就学家族分類	5
2.5. 調査回答者の職業と就学家族分類	6
3. 小学校統合の意識	7
3.1. 小学校統合に関する認知	7
3.2. 小学校のイメージ	8
3.3. 複式学級の対象	9
3.4. 集団生活体験とクラス編成	10
3.5. 跡地利用のイメージ	11
3.6. 小学校統合時の期待と不安	11
4. 統合に関する学区特性	13
4.1. 小学校在学者の学区属性	13
4.2. 小学校統合に関する旧嘉穂町での協議内容の認知	14
4.3. 既存学校の良いところ	14
4.4. 既存学校の悪いところ	15
4.5. 小学校の存在のイメージ	15
4.6. 「複式学級」の言葉の認知	16
4.7. 「複式学級」対象校の存在	16
4.8. 大きな集団での生活体験への志向	17
4.9. 望ましいクラス数	17
4.10. 跡地利用のイメージ	18
4.11. 小学校統合時の期待	18
4.12. 小学校統合時の不安	19

1. アンケート調査の概要

1.1. 調査の経緯

7月11日	郵送 (1,000 件) 嘉穂地区小学校へ配布依頼 (336 件)
7月25日	回答締切 (学校配布分の締切は7月18日)

1.2. 回答率

	配布	回答	回答率
一般郵送分	1,000	560	56.00%
学校配布分	336	336	100 %
全体	1,336	896	67.07%

1.3. 調査依頼

下記の調査依頼を行った。

<p>嘉穂地区小学校統合に関するアンケート調査</p> <p>—ご協力のお願—</p> <p>市民の皆様には、日頃から嘉麻市の教育行政に対し格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。 さて、旧嘉穂町では少子化による児童数の減少から嘉穂地区小学校の小規模化が懸念され、嘉穂地区の6小学校については1校に統合するべきだと基本方針が定められました。</p> <p>小学校教育は、児童にとって多様な人間関係を経験する機会であり、また、集団の中で切磋琢磨する能動的な態度の育成が必要とされる時期です。 このため、嘉麻市教育委員会としては、旧嘉穂町で協議されたとおり将来的には小学校は統合することが望ましいと考えています。</p> <p>このアンケート調査（以下、「調査」という。）は、これらの小学校統合に関する事項について、市民の皆様のご意見をお聞きし、計画策定の大切な資料とするために実施するもので、この度、20歳以上の嘉穂地区居住者の中から、1,000名を無作為に抽出したところ、あなたにご協力をお願いすることになりました。 お忙しいところ恐縮ですが、調査の目的、趣旨をご理解のうえ、率直なご意見をお聞かせください。</p> <p>*この調査は統計的に処理し、本調査の目的以外に利用することはなく、ご迷惑をおかけすることはありません。</p> <p style="text-align: right;">平成19年7月 嘉麻市教育委員会</p>
--

1.4. アンケート内容

次のアンケートを配付した。

問 10 嘉穂地区の小学校では4校が複式学級の対象になっていることをご存知ですか。

次の中からあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 よく知っている 2 だいたい知っている
- 3 聞いたことはある 4 知らない
- 5 その他 ()

問 11 小学校のころに、大きな集団（クラス替えができる程度）での生活を体験した方がよいと思いますか。次の中からあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 絶対したほうがよい 2 したほうがよい
- 3 今の程度でよい 4 必要ない
- 5 その他 ()

問 12 小学校の1学年のクラス数はどのくらいが望ましいと思いますか。次の中からあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

- 1 複式学級でもよい 2 1クラス
- 3 2クラス 4 3クラス以上
- 5 その他 ()

将来小学校が統合された場合についてお尋ねします。

問 13 小学校が統合された場合、地域の小学校はなくなります。跡地はどのように使用されるべきだと思いますか。次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 地域の集会施設 2 社会福祉施設
- 3 住宅地 4 企業や工場などの用地
- 5 公園や運動場
- 6 その他 ()

問 14 小学校が統合された場合、どのようなことを期待しますか。また、どのようなことに不安を感じますか。【期待すること】【不安に感じる】について、それぞれご回答ください。

【期待すること】

次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 クラス替えが出来る学校規模
- 2 よい意味での競争意識による学力の向上
- 3 スポーツや文化活動が盛んになること
- 4 多くの交友関係の中での社会性（仲間づくり等）が向上
- 5 校舎や学習施設等の教育環境の整備
- 6 その他 ()

【不安に感じる】

次の中からあてはまるもの全てに○をつけてください。

- 1 登下校の安全面
- 2 通学にかかる時間や距離が増大
- 3 児童数が多くなること
- 4 地域が衰退すること
- 5 児童の学力低下
- 6 その他 ()

○その他小学校の統合に関する意見等があればご記入下さい。（自由意見）

以上でアンケート調査は終わりです。ご協力ありがとうございました。

2. 調査対象者の属性

2.1. 調査回答者の家族の就学状況

調査対象者家族の就学状況は、小学校への就学者の有無を基準に、以下の4つに分類できる。

- ・ 「未就学児童がいる」家族：未就学児童のみ、未就学児童と中高生または高校生以上がいる場合を含めた家族で1割程度である。
- ・ 「小学校在学者がいる」家族：小学生のみがいる、小学生と未就学児童がいる、小学生と中高生または高校生以上がいる場合を含めた家族で4割程度である。
- ・ 「中又は高校以上がいる」家族：中学生または高校生以上がいる家族で2割程度である。
- ・ 「子どもはいない」家族：子どものいない家族で4割程度である。

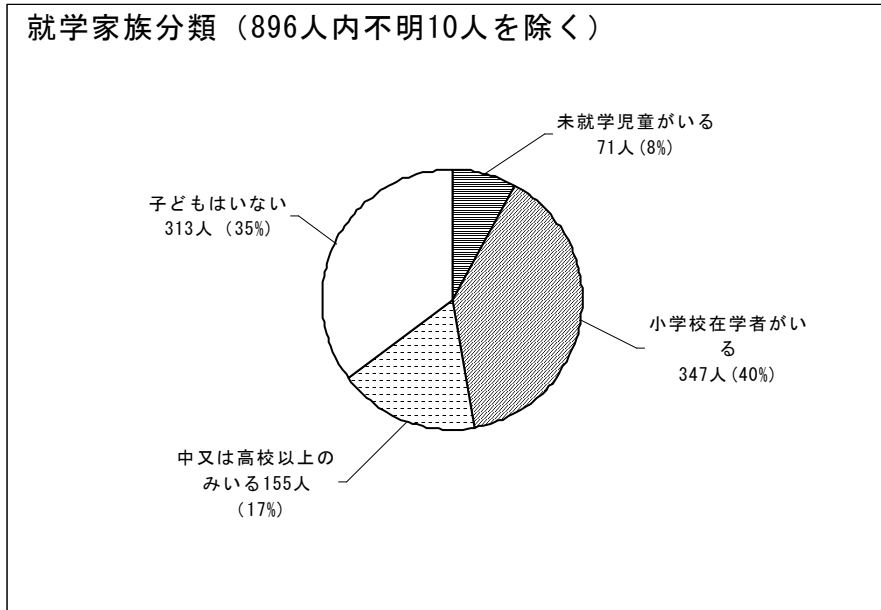


図 2.1 調査回答者の家族の就学状況

2.2. 調査回答者の性別と就学家族分類

調査回答者全体の男女比は4対6で女性が多い。就学家族分類では以下の特徴がある。

「未就学児童がいる」家族および「小学校在学者がいる」家族は、回答者の6割以上が女性である。

「中又は高校以上がいる」家族および「子どもはいない」家族の男女比は5割程度といえる

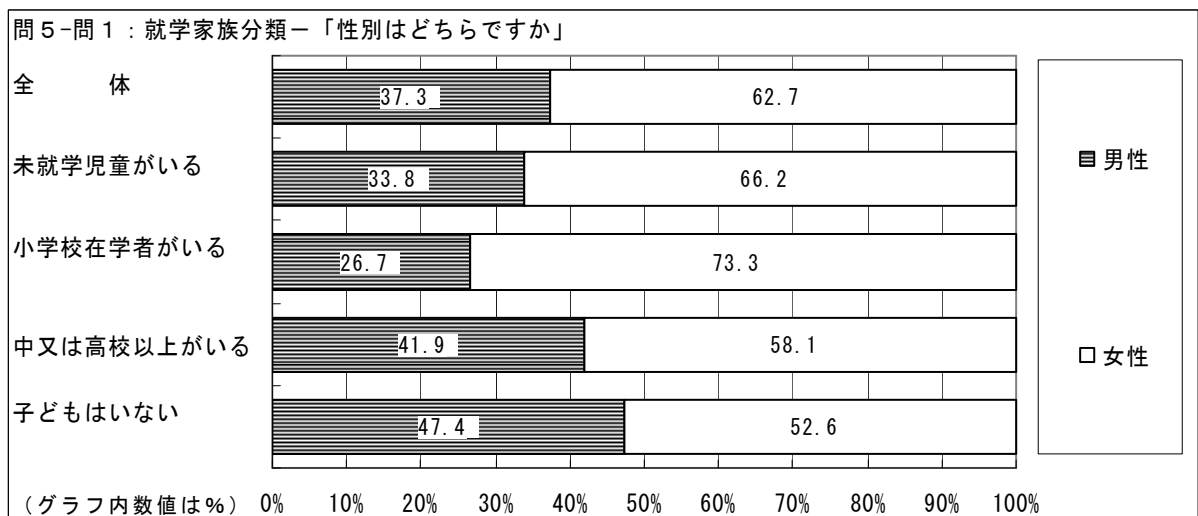


図 2.2 調査回答者の性別と就学家族分類

2.3. 調査回答者の年齢と就学家族分類

全体では、10歳ごとの区分で、その割合は20歳代を除いていずれの年代も2割程度である。

就学家族分類では、「小学校在学者がいる」と「未就学児童がいる」は30歳代以下が5割程度を占め、比較的若い世代の回答者である。また、「中又は高校以上がいる」と「子どもはいない」では50歳代以上が5割を超えており、中高年に多い回答である。なお、「子どもはいない」では20歳代の若い回答者も2割程度含まれている。

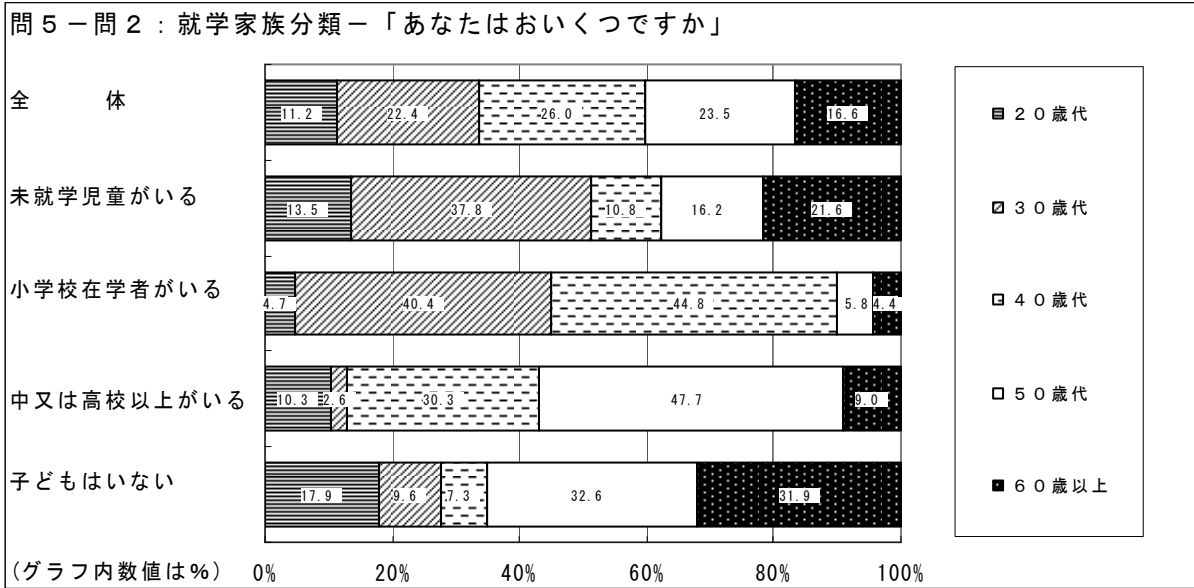


図 2.3 調査回答者の年齢と就学家族分類

2.4. 調査回答者の職業と就学家族分類

全体では、「会社員、団体職員」、「公務員、教員」ならびに「商工業・サービス業の自営業」の、第2・3次産業の就業者が5割程度を占めている。「専業主婦(夫)」と「パート、アルバイト」は、いずれも2割程度である。

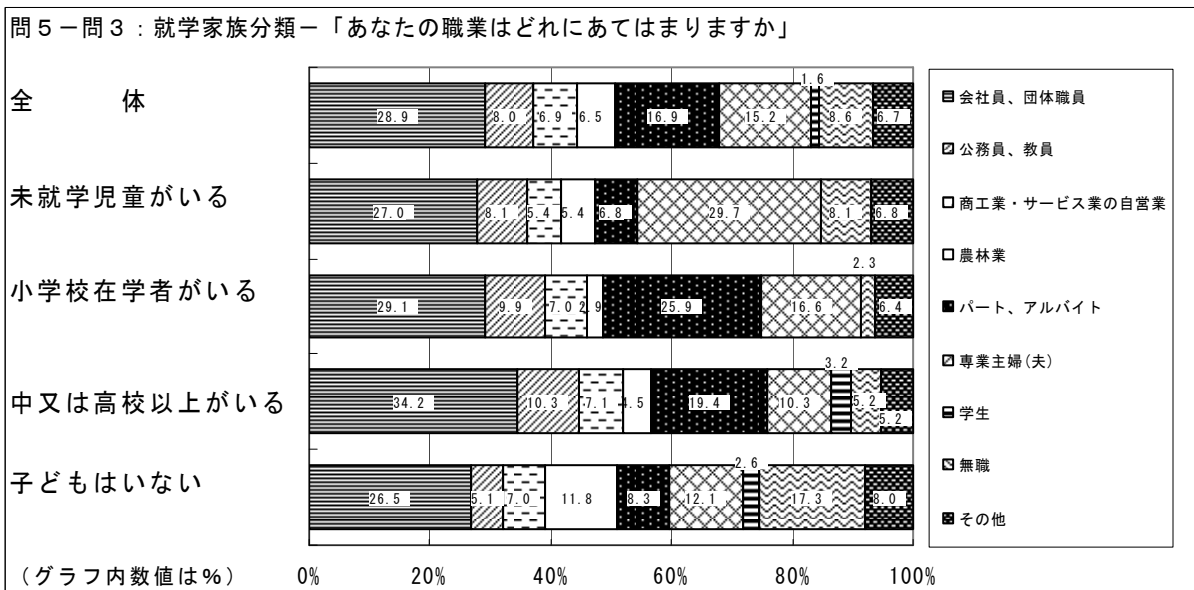


図 2.4 調査回答者の職業と就学家族分類

2.5. 調査回答者の職業と就学家族分類

全体の居住学区では大隈小が3.5割、牛隈小・宮野小・千手小は1.5割程度、足白小と泉河内小は1割程度と少ない。

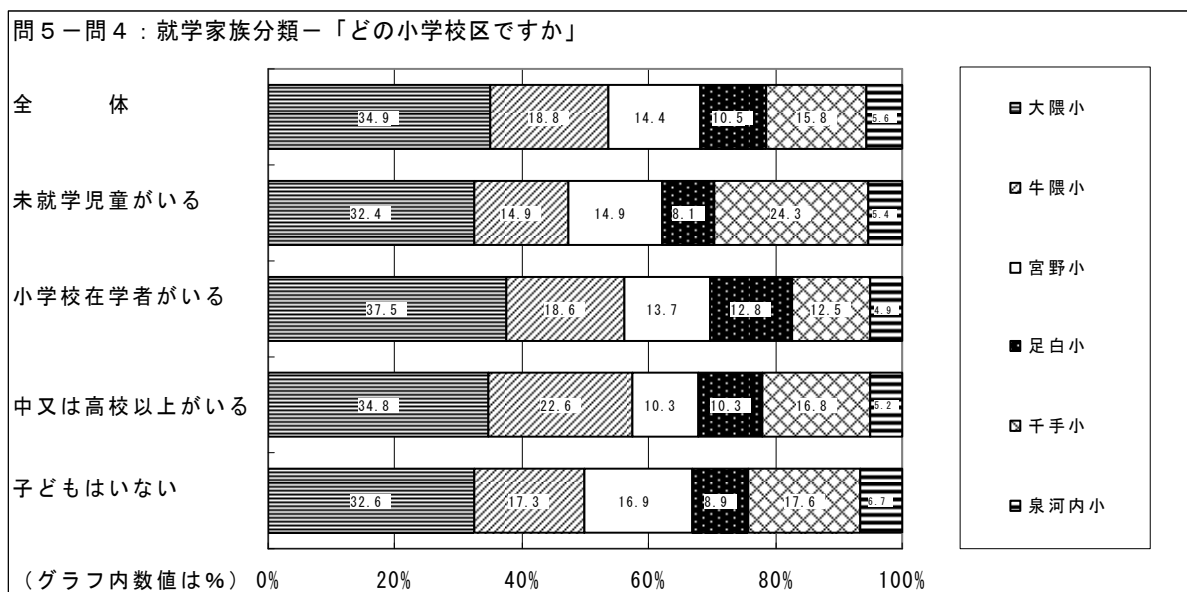


図 2.5 調査回答者の職業と就学家族分類

学区別の就業家族分類では、足白小では小学校在学者は多いものの「未就学児童がいる」は1割未満である。

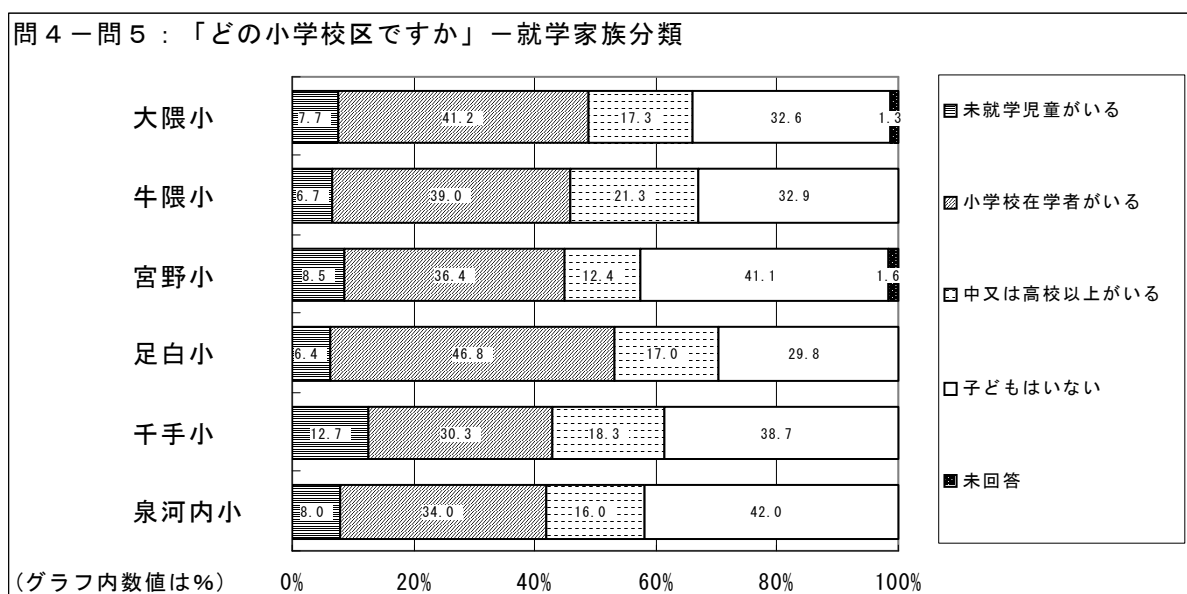


図 2.6 学区別-調査回答者の就学家族分類

3. 小学校統合の意識

3.1. 小学校統合に関する認知

小学校統合の検討内容について、全体では「聞いたことはある」は約4割、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせると約3割が「知っている」といえる。そこで、「知らない」と「その他」を合わせると2割を超え、「知っている」と「知らない」が拮抗していると言える。

「よく知っている」と「だいたい知っている」が多いのは、「小学校在学者がいる」家族で、ここでは「知らない」が約1割と少ない。小学校在学者がいない家族ほど統合に関する認知が低いといえよう。

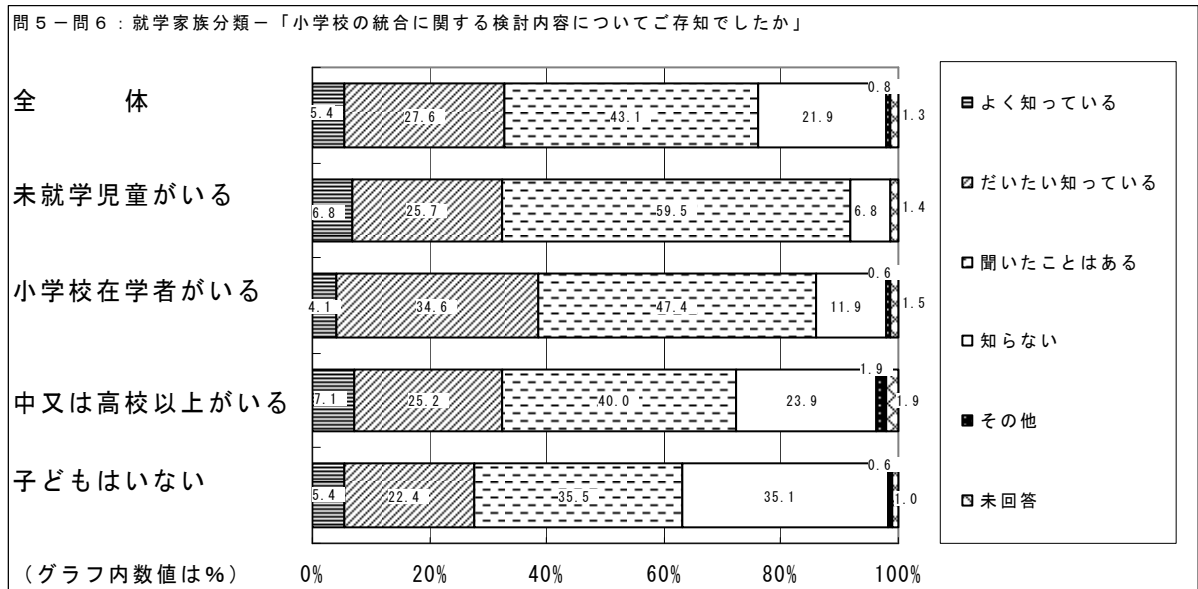


図 3.1 就学家族分類-小学校統合に関する認知

1) 既存学校の良いところ

既存学校に対するイメージは、全体では「少人数授業により行き届いた指導が行われている」は約6割、「上級生と下級生の仲が良い」は約5割と多い。嘉穂地区の小学校では、すでに少人数教育であること、および上・下級生と交流関係が出来ていることから、少人数教育による良いイメージがつけられている。

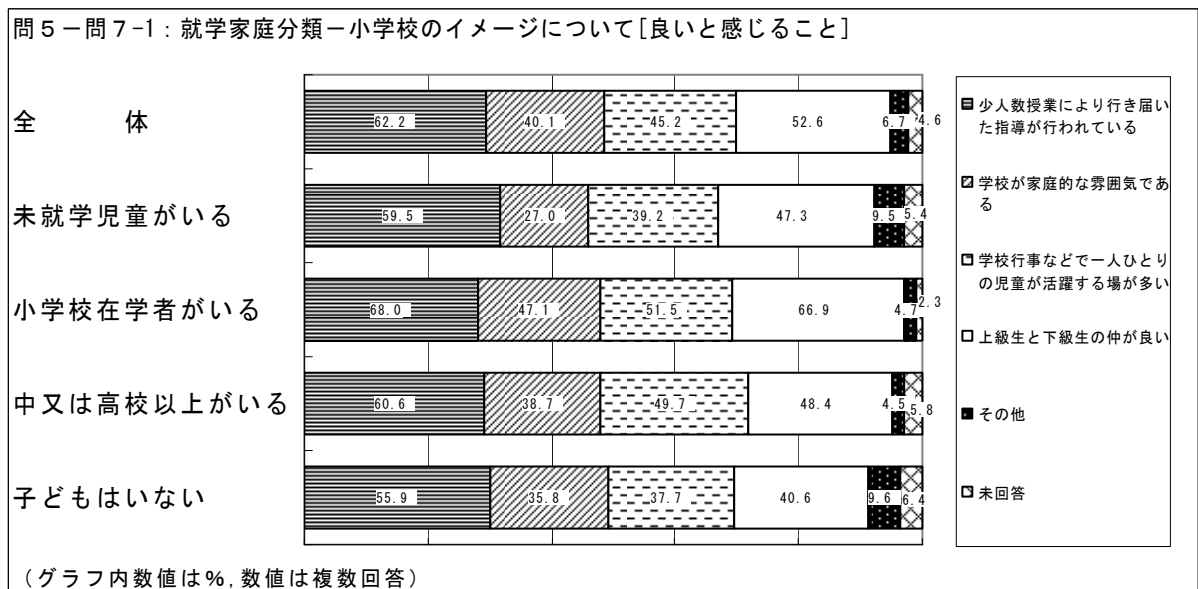


図 3.2 就学家族分類-既存学校の良いところ

2) 既存学校の悪いところ

既存学校の悪いイメージは、全体では「プールがないことなど必要な学習施設が不足している」と「施設(校舎、体育館、トイレ等)が老朽化している」で約4割を超えており設備の不備と老朽化があげられる。

就業家族分類でみると、「小学校在学者がいる」と「未就学児童がいる」では設備の不備が約7割あるが、「中又は高校以上がいる」や「子どもはいない」では約5割ある。「小学校在学者がいる」ならびに今後在学するであろう「未就学児童がいる」回答者ほど設備に対するイメージは悪い。

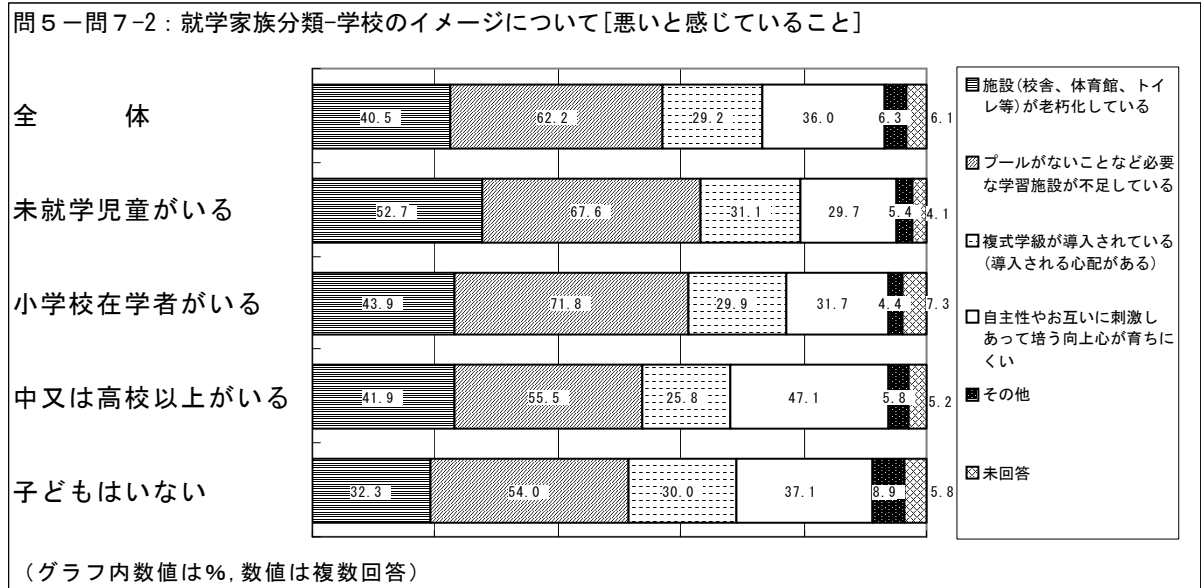


図 3.3 就学家族分類-既存学校の悪いところ

3.2. 小学校のイメージ

全体では、「単に教育施設」、「地域の社会活動の場所」、「地域のシンボリックなもの」に回答した人が多い。「緊急時の避難場所」と「その他」はいずれも1割に満たないことから、学校施設はその地域の社会的・教育的な拠点としてのイメージが高い。

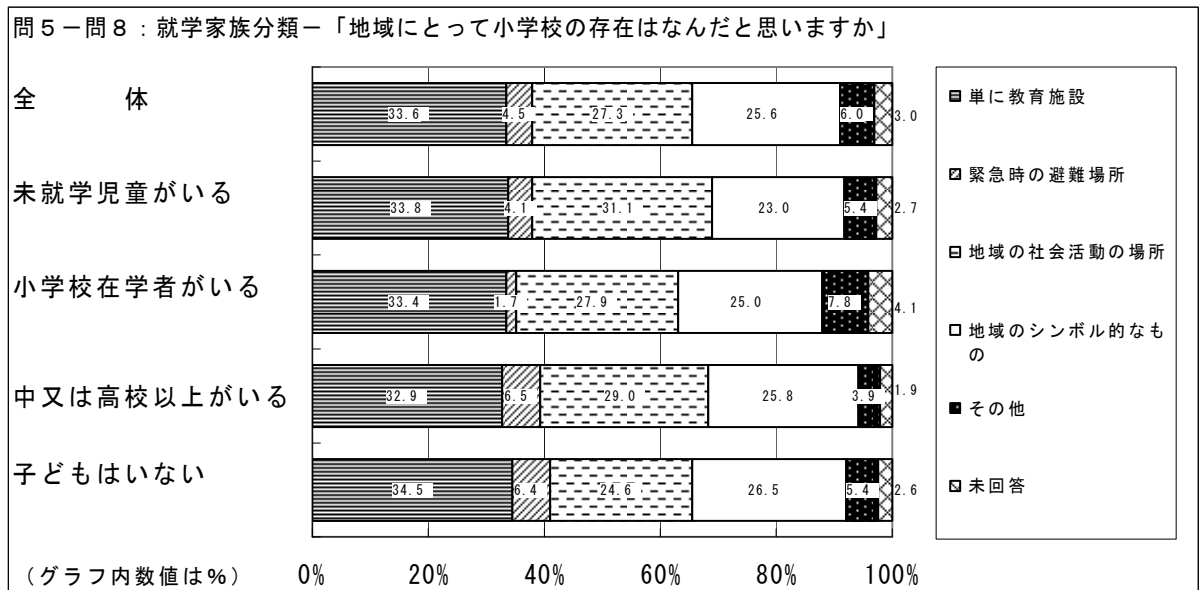


図 3.4 就学家族分類-小学校のイメージ

3.3. 複式学級の対象

1) 「複式学級」の言葉の認知

「複式学級」という言葉は、「中又は高校以上がいる」に対して「子どもはいない」では「よく知っている」が1割程度低下するが、知っているという認知に大きな違いはない。「未就学児童がいる」では、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせて7割程度が知っているが、「小学校在学者がいる」に比べて約1割少ない。なかでも「よく知っている」が少なく。大まかな認知といえる。

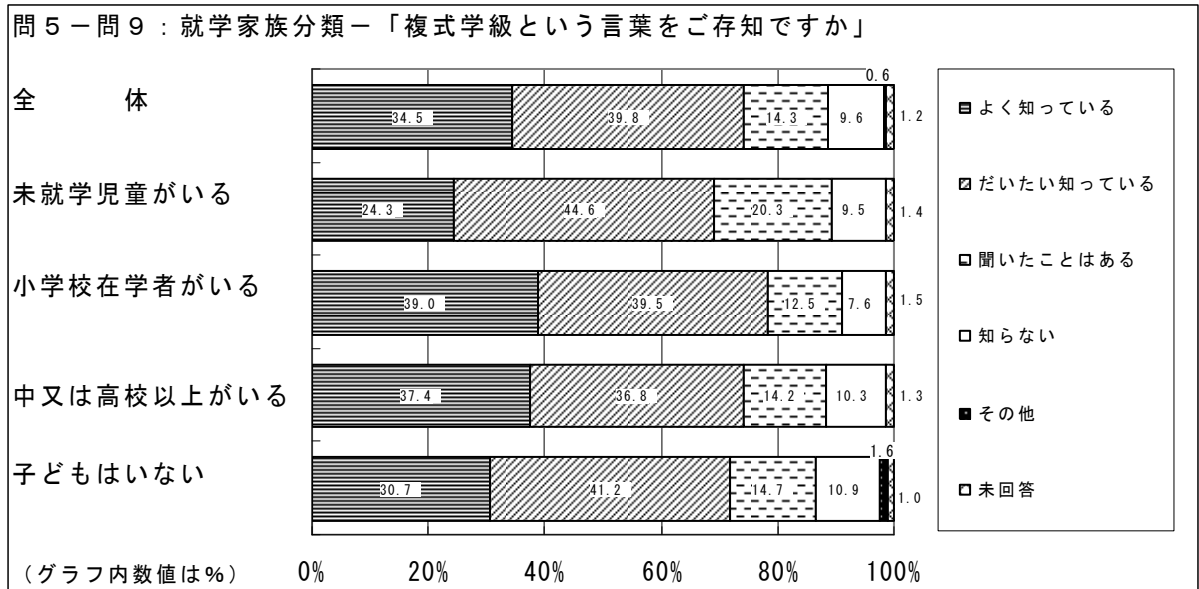


図 3.5 就学家族分類－「複式学校」の言葉の認知

2) 「複式学級」対象校の存在

全体では、「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた「知っている」が5割程度で、「聞いたことはある」と「知らない」および「その他」を合わせた「知らない」の割合と拮抗する。

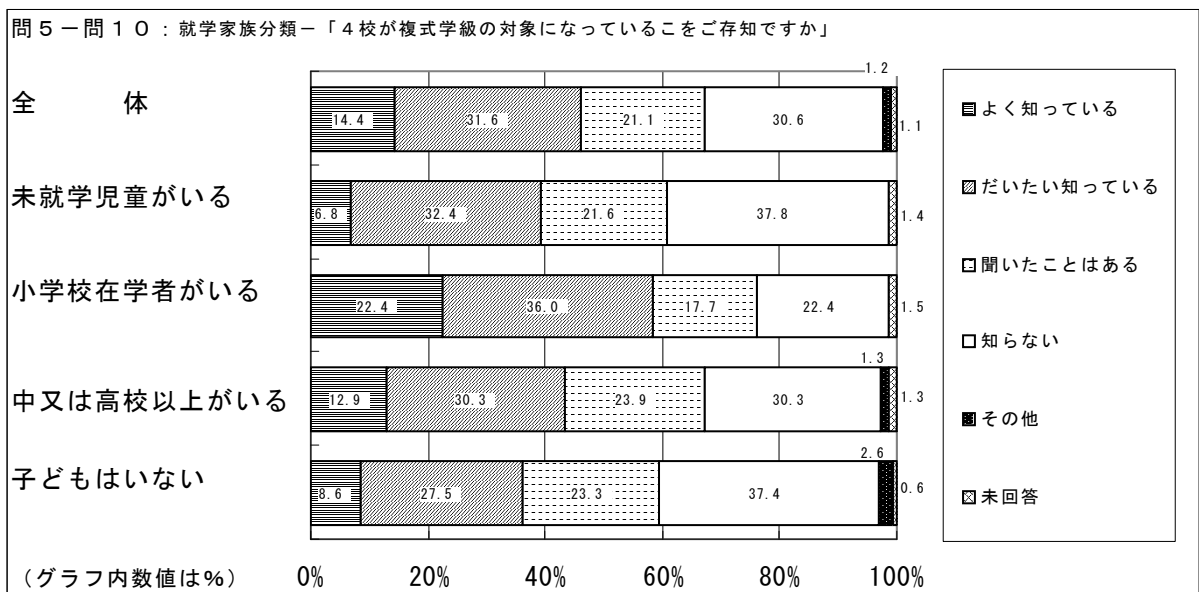


図 3.6 就学家族分類－「複式学級」対象校の存在

3.4 集団生活体験とクラス編成

1) 大きな集団での生活体験への志向

小学校における集団生活体験の存続は、全体では、積極的な「絶対した方がよい」と賛成の「したほうがよい」を合わせて7割程度になり、「いまの程度でよい」の約2割に対して、ほぼ賛成と見られる。

しかし、「小学校在学者がいる」では、積極的賛成と賛成は約6割、「今の程度でよい」が約3割で、現状維持が多い。集団生活体験については、当事者である小学校在学者がいる回答者は、小学生のいない他の回答者に比べて賛成が減少しており、考え方が異なると言える。

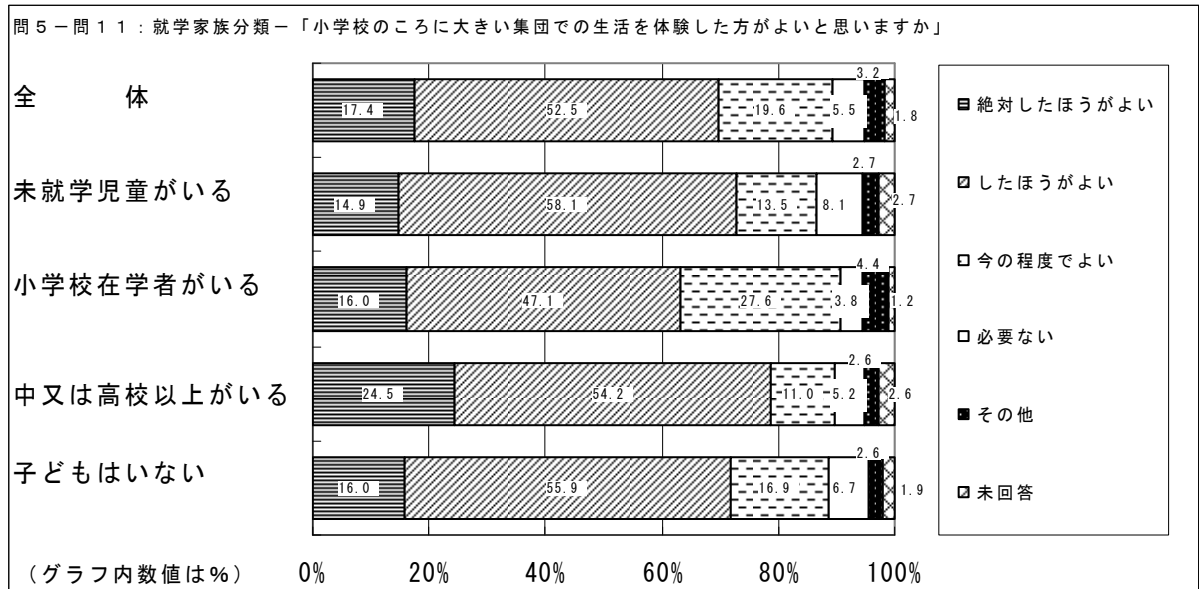


図 3.7 就学家族分類-大きな集団での生活体験への志向

2) 望ましい学年クラス数

全体では、「2クラス」が約4割、「3クラス以上」は2割を超え、2～3クラスで7割程度となる。なお「1クラス」は2割程度、「複式学級」は1割未満で、基本的には複数クラスによる学年を希望している。

「中又は高校以上がいる」では、2～3クラスが7割を超え複数クラスが望ましいとしている。そのほかの家族分類もほぼ全体と同様である。

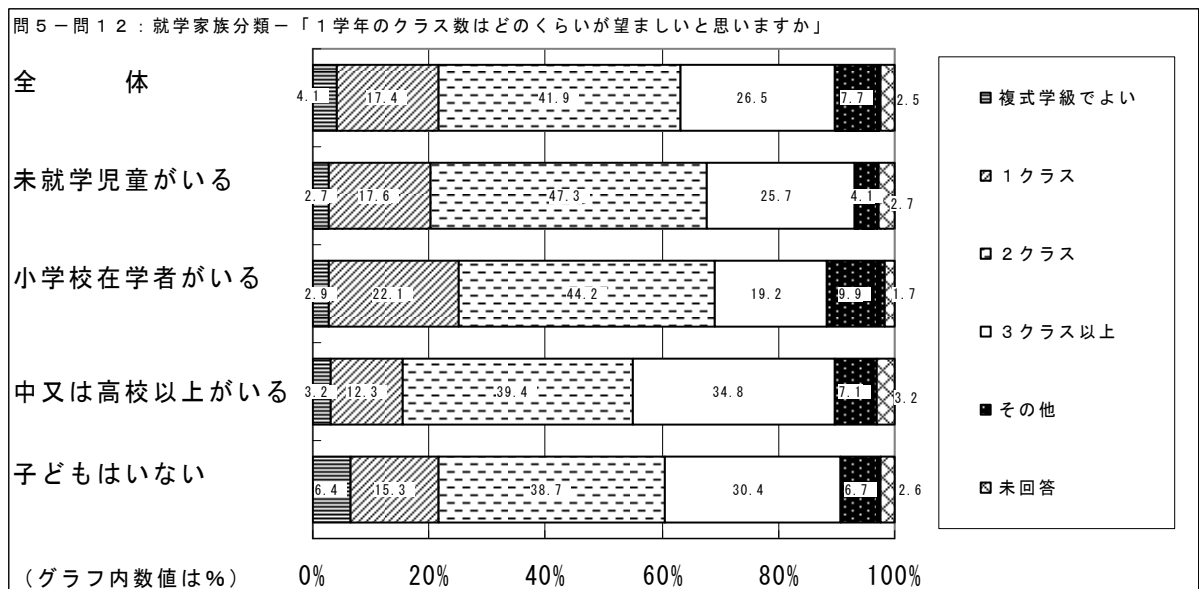


図 3.8 就学家族分類-望ましい学年クラス数

3.5. 跡地利用のイメージ

全体では、「公園や運動場」が多く、「地域の集会施設」と「社会福祉施設」が続き、「住宅地」・「企業や工場などの用地」・「その他」は少なく、社会教育的・公共的利用と言える。

なお、家族分類ごとの跡地利用イメージの差異は少ない。

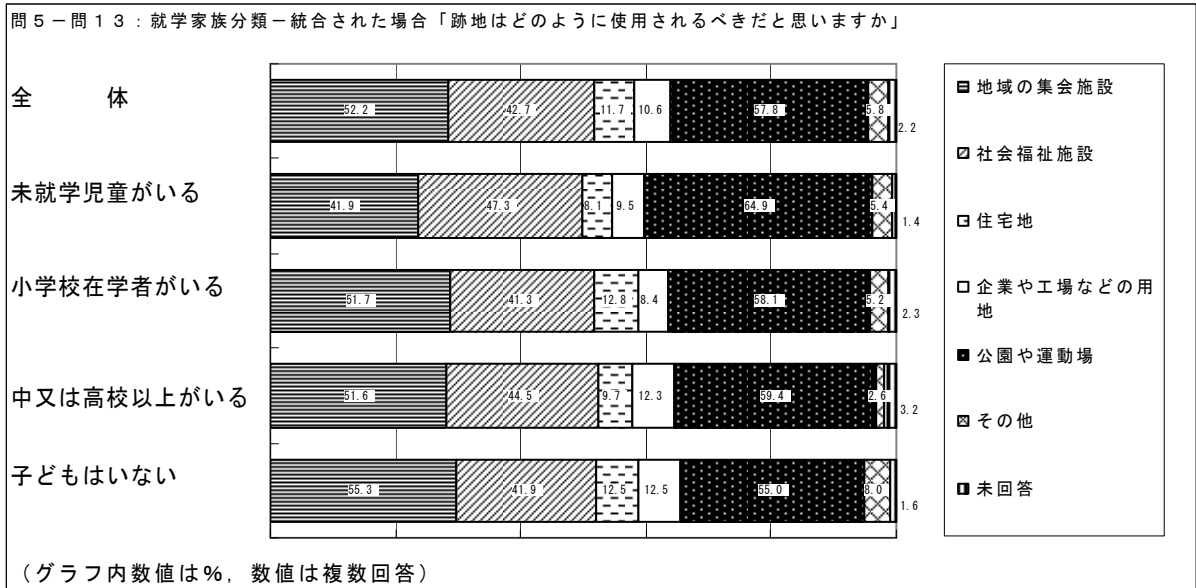


図 3.9 就学家族分類-跡地利用のイメージ

3.6. 小学校統合時の期待と不安

1) 小学校統合時の期待

統合に伴い多くの期待がある「多くの交友関係の中での社会性(仲間づくり等)が向上」、「よい意味で競争意識による学力の向上」がいずれも6割を超える。続いて「校舎や学習施設等の教育環境の整備」「スポーツや文化活動が盛んになること」、「クラス替えができる学級規模」、があげられ、交友や学力の向上に続き、規模的拡大による物理的効果があげられる。

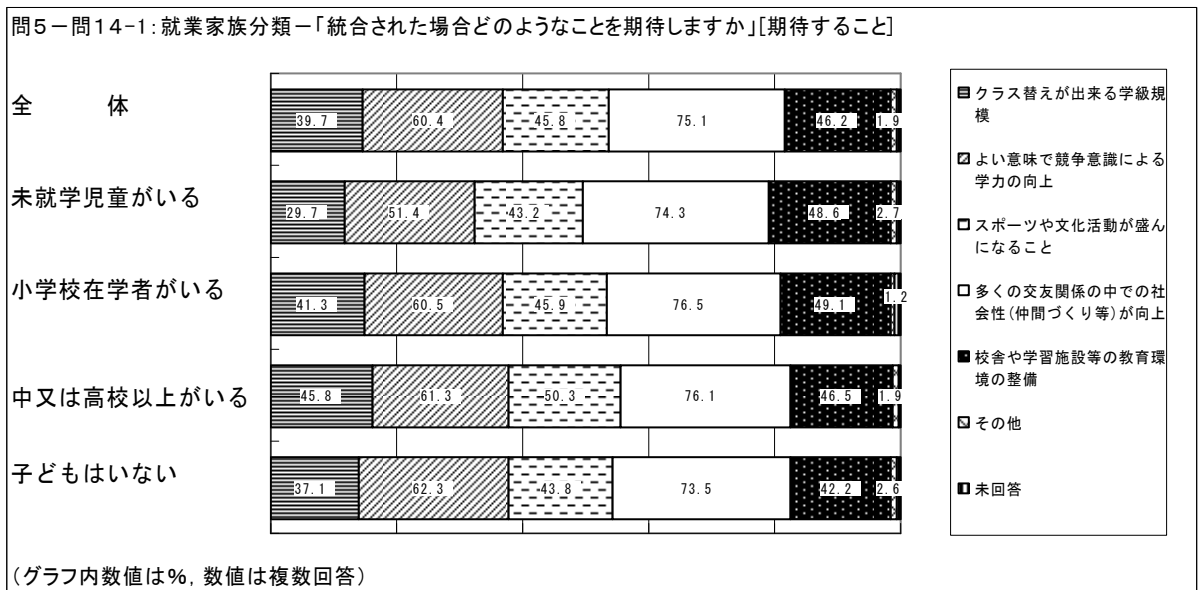


図 3.10 就学家族分類-小学校統合時の期待

2) 小学校統合時の不安

全体では、「登下校時の安全面」や「通学にかかる時間や距離が増大」で約8割にも達し、登下校の通学問題に不安があるといえる。

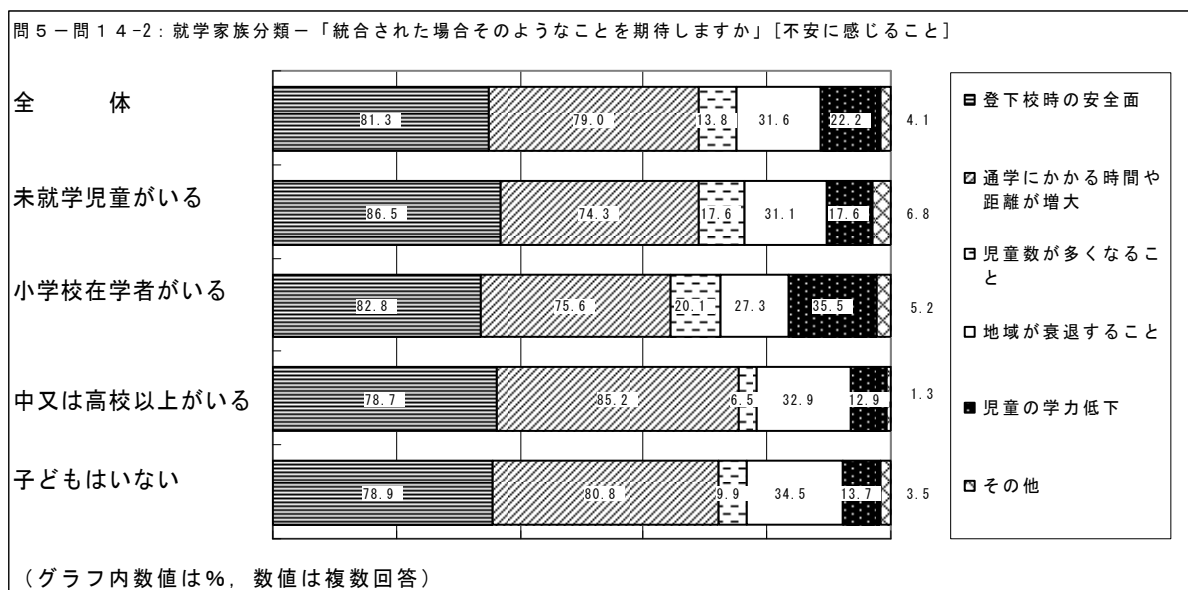


図 3.11 就学家族分類-小学校統合時の不安

4. 統合に関する学区特性

統合において最も影響が予想される「小学校在学者がいる」家族の回答者を抽出し、統合についての考えを学区別に検討した。

4.1. 小学校在学者の学区属性

1) 学区ごとの年齢層

「小学校在学者がいる」家族の回答者の年齢は概ね 40 歳代以下で比較的若い世代である。

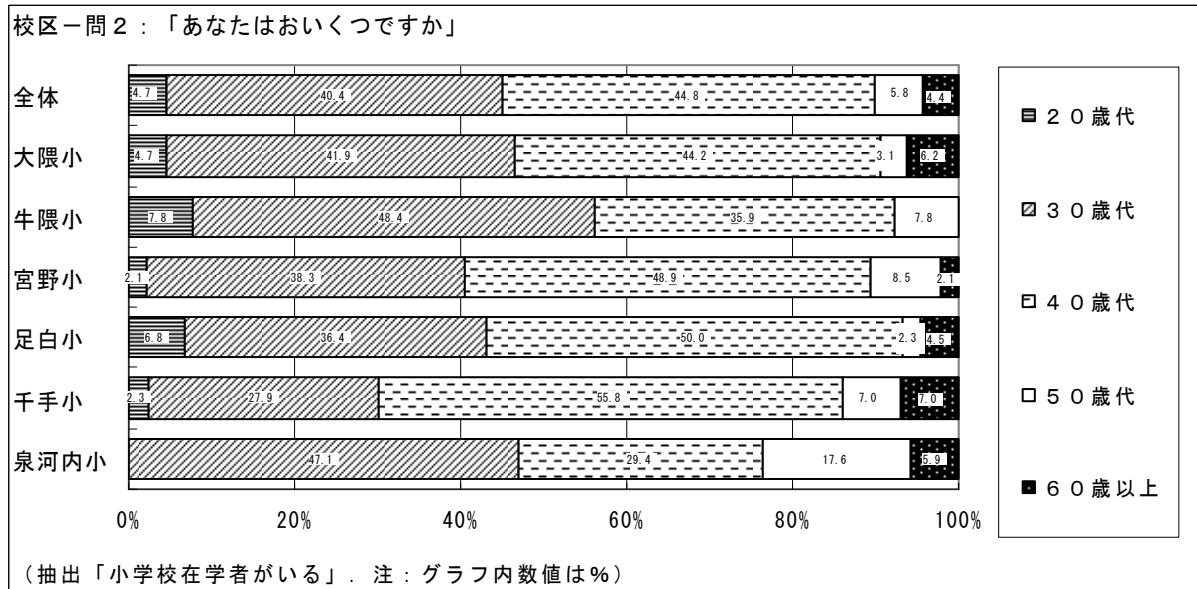


図 4.1 小学校在学者—学区ごとの年齢層

2) 回答者の職業

全体では、「会社員、団体職員」および「パート、アルバイト」「専業主婦(夫)」が多く「無職」「その他」を除けば「農林業」は少ない。

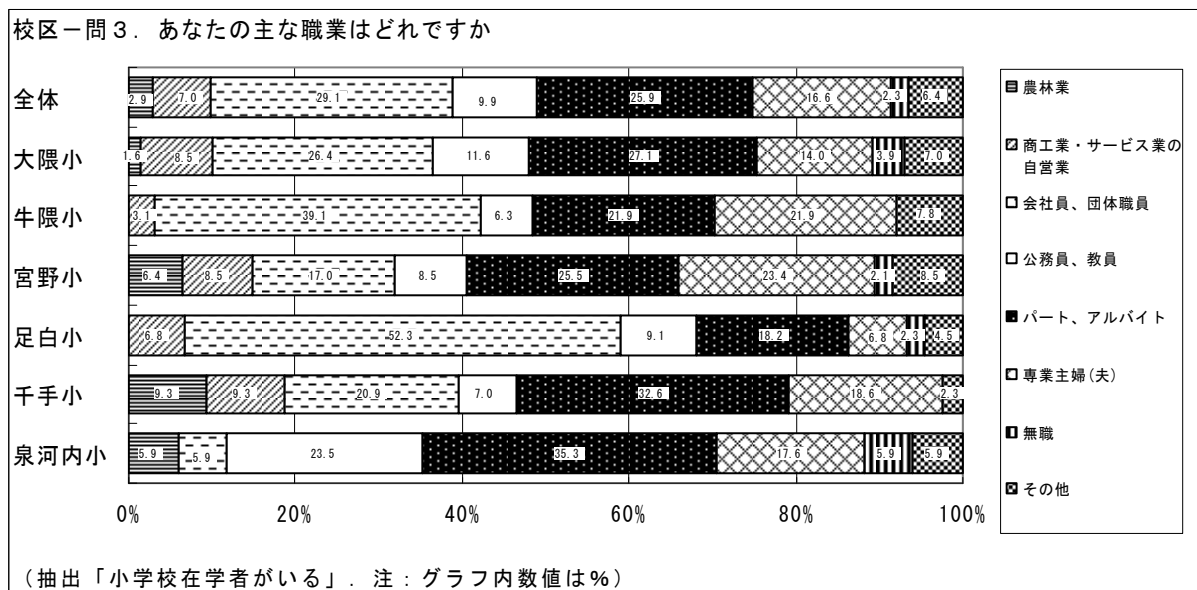


図 4.2 小学校在学者—回答者の職業

4.2 小学校統合に関する旧嘉穂町での協議内容の認知

統合に関する内容を「よく知っている」「だいたい知っている」を合わせても4割未満と低い。さらに、牛隈小学区は他学区に比べて認知が低い。

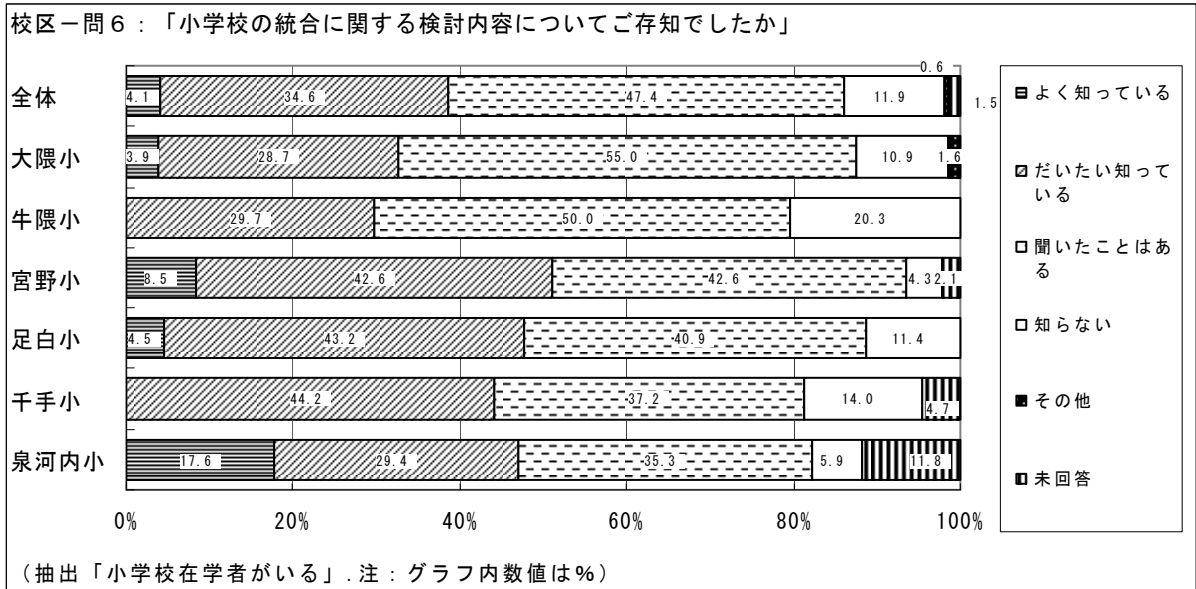


図 4.3 小学校在学者—小学校統合に関する旧嘉穂町での協議内容の認知

4.3 既存学校の良いところ

全体では、「少人数授業により行き届いた指導が行われている」と「上級生と下級生の仲が良い」はいずれも6割を超え、教育・交流面でのイメージがよい。

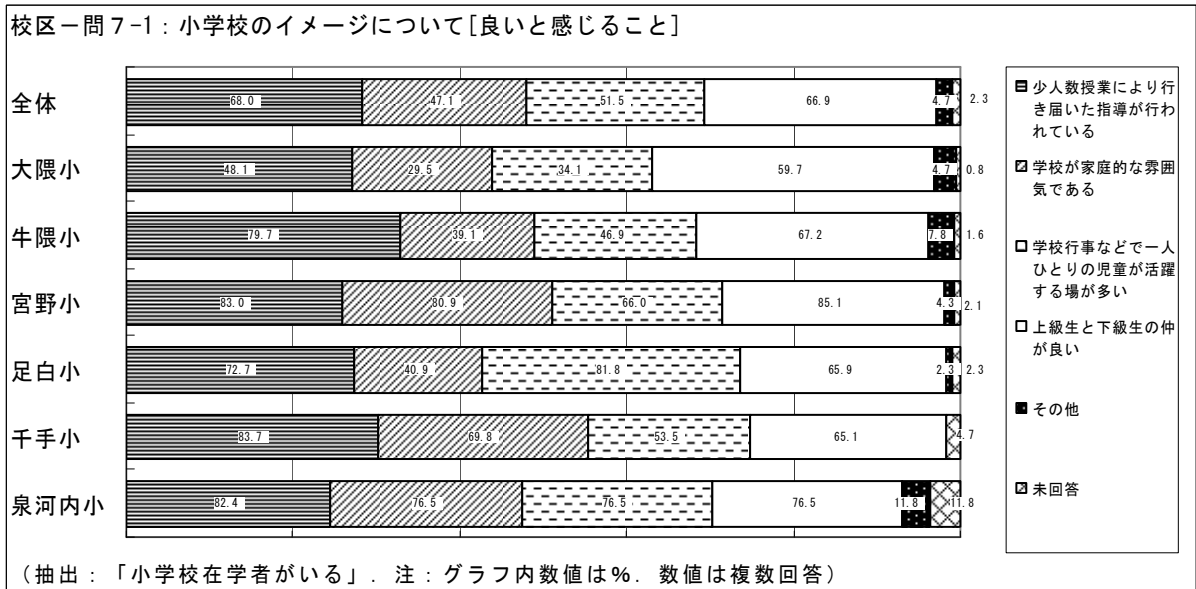


図 4.4 小学校在学者—既存学校の良いところ

4.4 既存学校の悪いところ

学区によって既存学校の悪いところは異なっている。大隈小及び牛隈小では、設備に関する項目が6割を超えるが、宮野小、足白小、千手小及び泉河内小学区では「複式学級が導入されている（導入される心配がある）」が4割を超え、悪いイメージとしてとらえている。

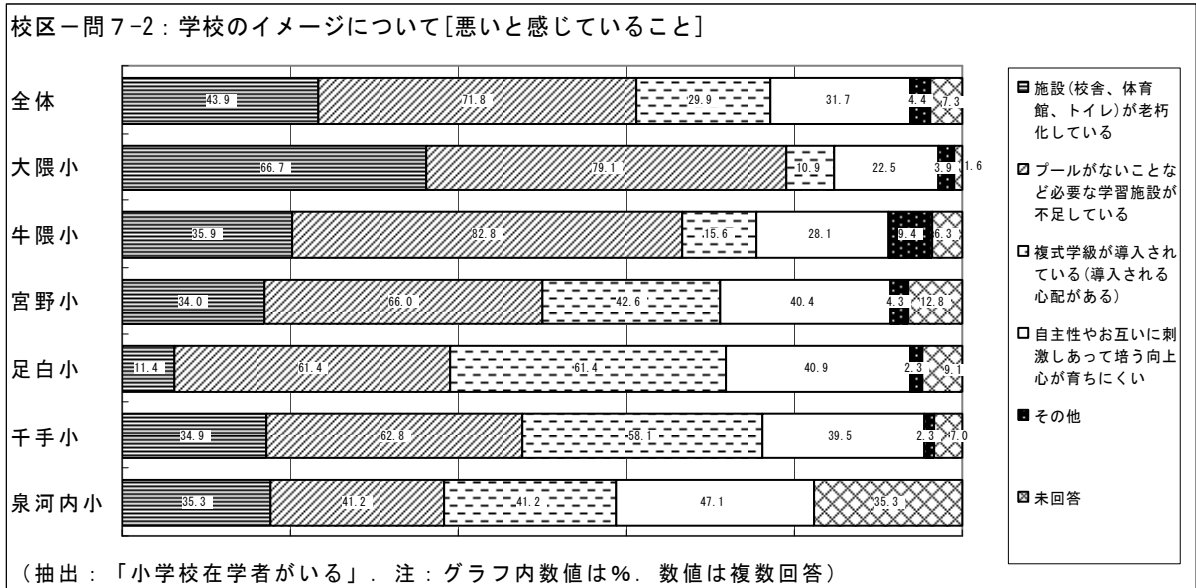


図 4.5 小学校在学者—既存学校の悪いところ

4.5 小学校の存在のイメージ

全体では、「単に教育施設」、「地域の社会活動の場所」の建物や場所のイメージ、それに「地域のシンボリックなもの」を合わせるとほぼ約9割に達する。いわば地域の教育的拠点でありシンボルである。しかしこの傾向は大隈小及び牛隈小において同様であるが、宮野小、足白小及び泉河内小学区では、「単に教育施設」が少なく、「地域の社会活動の場」や「地域のシンボリックなもの」が多い。

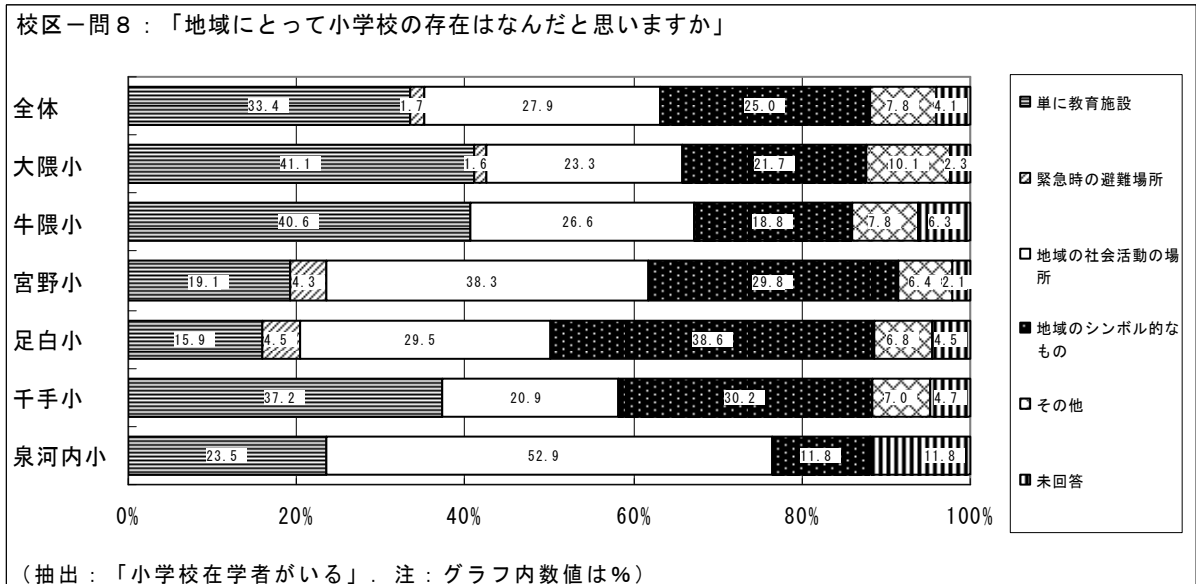


図 4.6 小学校在学者—小学校の存在のイメージ

4.6. 「複式学級」の言葉の認知

大隈小及び牛隈小学区では「よく知っている」との言葉の認知は3割未満と低い。しかし、足白小や宮野小及び泉河内小学区ではその言葉の認知は5割を超え、「複式学級」の言葉が広まっており、学区差が顕著である。

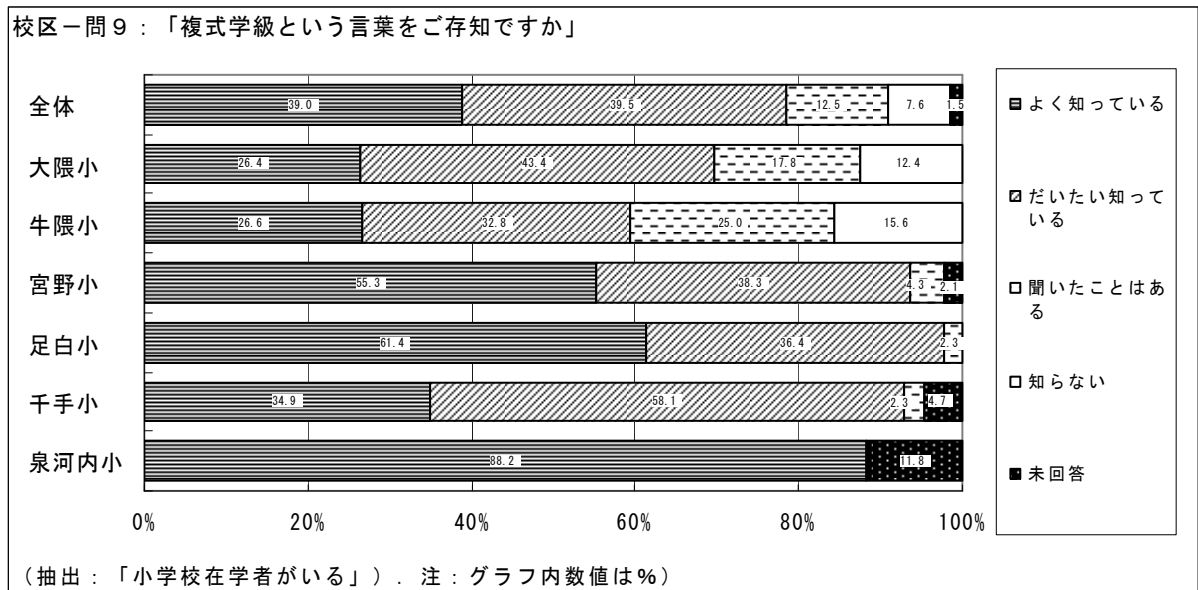


図 4.7 小学校在学者－「複式学級」の言葉の認知

4.7. 「複式学級」対象校の存在

大隈小及び牛隈小学区では2割未満と低いが、宮野小、足白小及び千手小学区では3割程度、さらに、泉河内小学区では5割を超え、実際の状況認知に学区差がある。

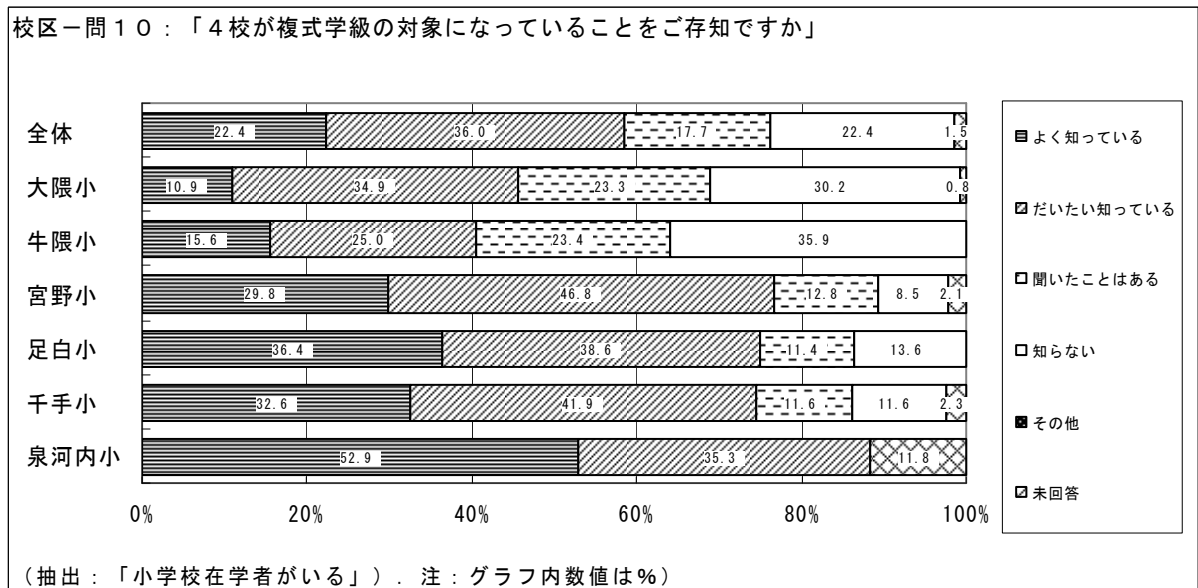


図 4.8 小学校在学者－「複式学級」対象校数の存在

4.8. 大きな集団での生活体験への志向

大隈小及び牛隈小学区では、「絶対したほうがよい」や「したほうがよい」の積極的賛成が7割程度、他の学区では約6割である。中でも宮野小では5割以下と少なく、「今の程度でよい」が4割程度あり現状維持といえる。

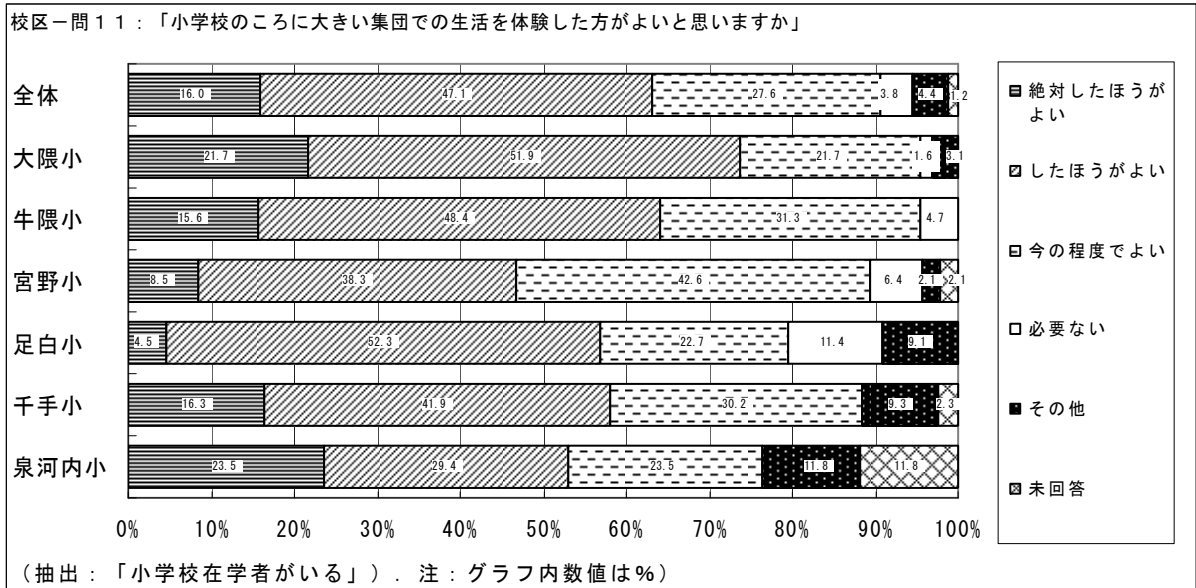


図 4.9 小学校在学者—大きな集団での生活体験の志向

4.9. 望ましいクラス数

全体では、2クラス以上が6割をこえる。「1クラス」と「複式学級でよい」をあわせても3割未満で、少数クラスは望まれないといえる。

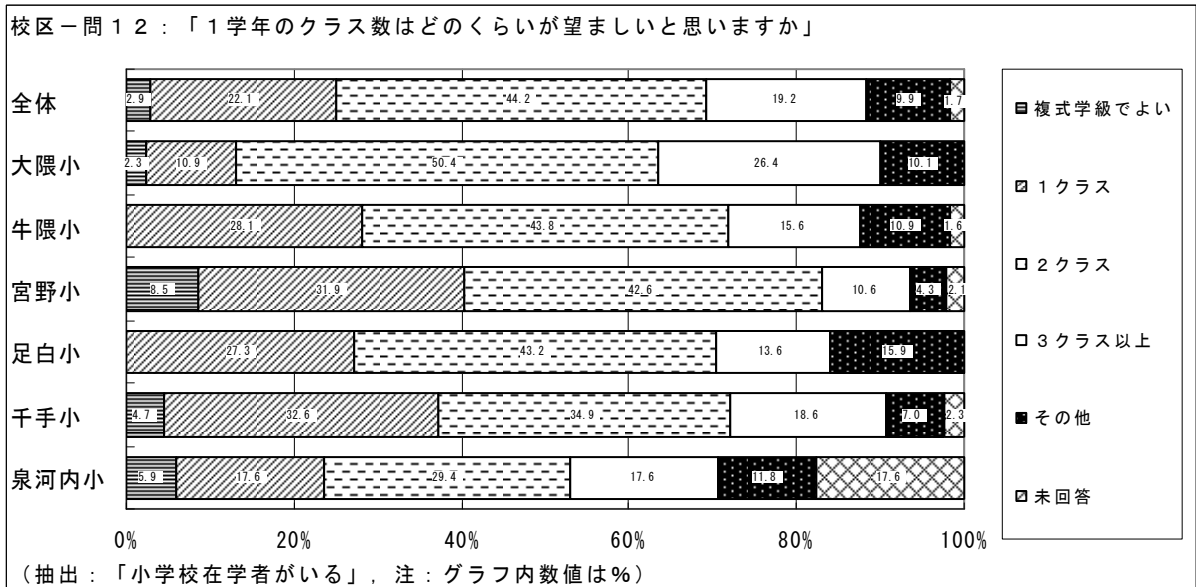


図 4.10 小学校在学者—望ましいクラス数

4.10. 跡地利用のイメージ

小学校統合跡地の利用は、全体では「地域の集会施設」「公園や運動場」への希望が多い。なかでも「公園や運動場」はいずれの学区でも5割以上ある。しかし、「地域の集会施設」や「社会福祉施設」などもあり、学区によって異なる。

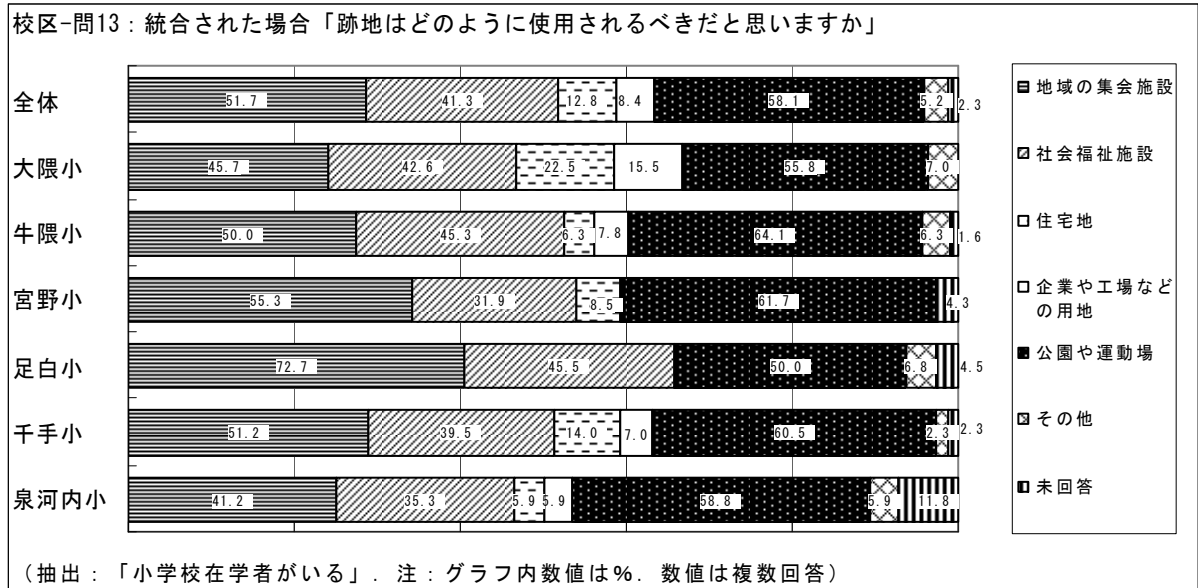


図 4.11 小学校在学者—跡地利用のイメージ

4.11. 小学校統合時の期待

統合に対する期待は、いずれの学区も差異が少なく、各意見が拮抗している。

宮野小及び足白小学区では、「クラス替えができる学級規模」が他学区より少なく、「多くの交友関係の中で社会性(仲間づくり等)が向上」が7割以上あり、クラス替えの出来るクラス数よりも交友関係への期待が高い。

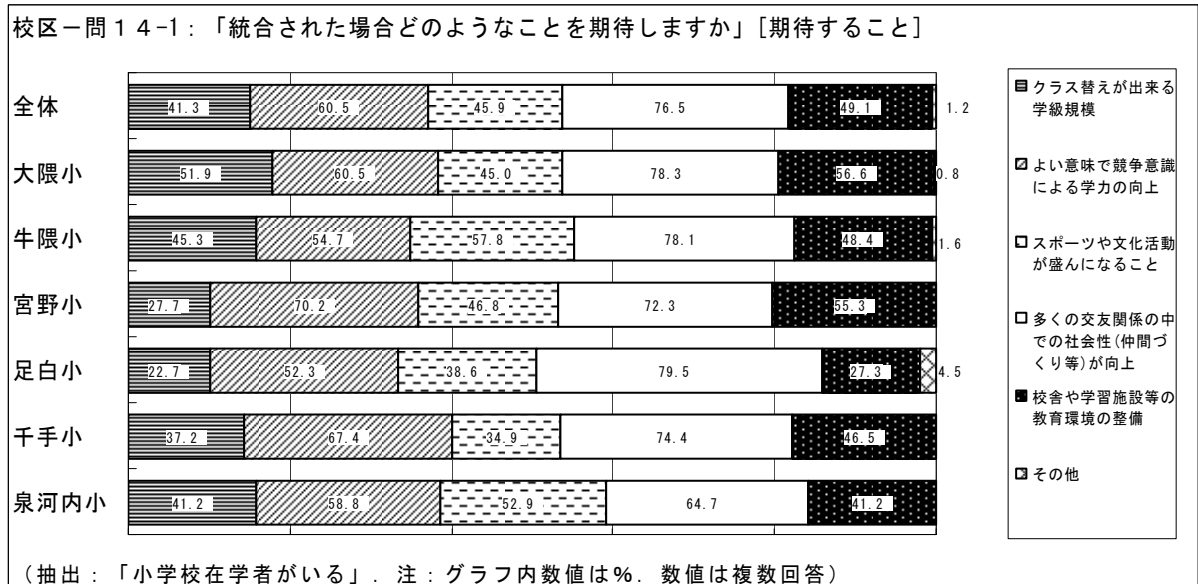


図 4.12 小学校在学者—小学校統合時の期待

4.12. 小学校統合時の不安

統合にともなう不安は、いずれの学区でも「登下校時の安全面」と「通学時にかかる時間や距離が増大」でいずれも約6割をこえており、学区差は少ない。

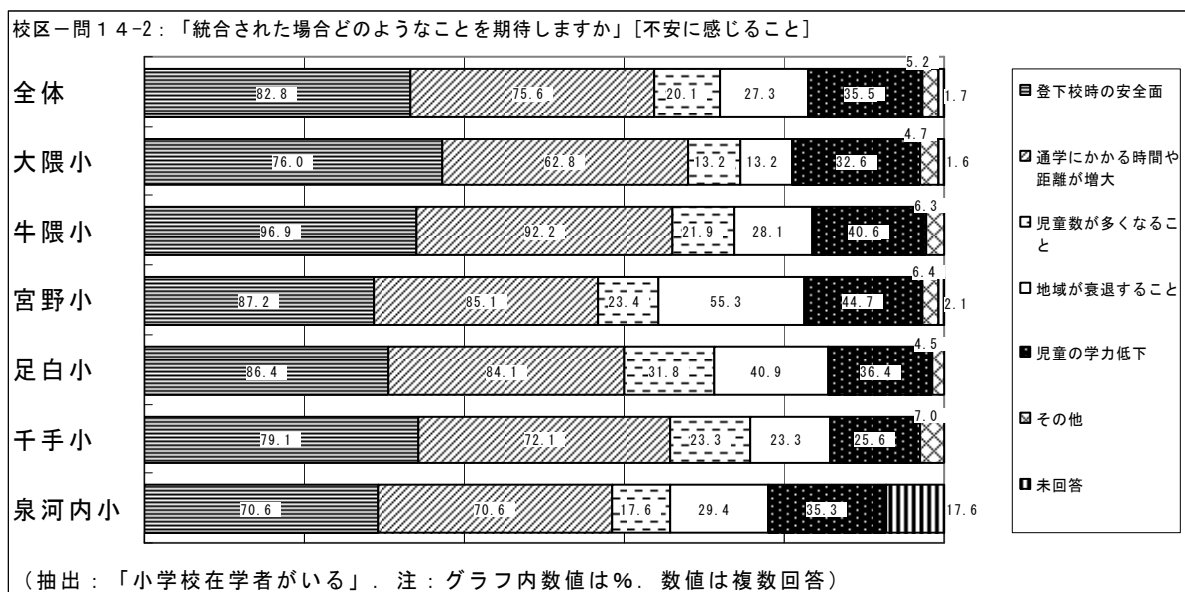


図 4.13 小学校在学者—小学校統合時の不安